

祝福式について

☆ 2005.11.9 あっこ@駅長

祝福式とは摂理で行われている結婚の儀式または方式のことです。統一教会の合同結婚式ほど適当にカップリングされるわけではありませんが、摂理の人のみの会合があり、そこでカップリングされることは変わりありません。私はその祝福式に出たことはなかったのですが、指導者レベルだったということと、断ったけれども2002年1月の祝福式には出る資格がありました。そのため祝福式から帰ってきた人たちにそのときの様子を詳しく教えてもらいましたので、知っている範囲で手記に残そうと思います。

【祝福式参加の資格】

私たちがいた頃は、「27歳以上」で「3年以上在籍」で「3人以上の伝道」が条件でした。でも実際は3人以上伝道できていた人は多くなく、その資格はそこそこ免除されていたようです。27歳以上でも、来て1年くらいの方は呼ばれませんでしたし、2年そこそこでも30歳の方は参加できたりと、ひとりずつケースバイケースで判断していたようです。

【祝福式の説明】

祝福式の存在は、メンバーが参加条件を満たすまで説明されることは一切ありません。ただ個人的に祝福式について聞いてきた人に対してはうまく説明するよう言われていました。

私の経験でいうと、私が摂理のメンバーに成り立ての頃、摂理の人同士しか結婚していないということと、でも男女交際は禁止されているということにふと疑問を感じ、当時の教会指導者に「摂理の人ってどうやって結婚するんですか？」と聞いたことがありました。そしたら「ねるとんみたいなもんかな」と答えられました。当時はおおいにつまづきました。「ねるとんって!？」と思いました。

そのあと私がつまづいたことをどこかから聞いた日本のリーダーHさんが「何聞いてつまづいたの?」とか「それは彼女の説明が悪いわよ」と言って長い間時間をとって話してくださいました。

その内容は具体的な祝福式の内容ではありませんでしたが、バイブルスタディの話をされながら、「あっこちゃんは摂理の人以外と結婚したら信仰を守れる自信がある?」

「世の中の方は簡単に離婚したり、つきあってる人も簡単に別れたりするけれどそれはみんな幼いからだ」

「私たちはまず自分自身を信仰で磨いて、同じく磨かれた人と結婚すればうまくいくはずだ」

「今は磨く期間だから交際は禁止しているけれども、磨かれたら後に結婚できる。そして御心の相手だと判断できるのは先生しかいないでしょう。そしてそういう場が必要だということもわかるでしょう」といったことを説明されました。

自分自身その方法を認めるとか認めないとかの問題ではなく、「摂理を広げるためにはそれが一番だろうな」と感じたことを覚えています。私に「ねるとんよ」と説明した指導者は後々だいぶ叱られたそうです。

私も社会人の指導者をやっていたので、結婚に関してはメンバーからいろいろ聞かれたことがありますが、いつも自分がHさんに言われたことをそのまま言っていました。それでも絶対につまづく

だろうと思われる人には「霊が成長すればもっとわかるようになるよ」と付け加えました(摂理指導者の常套句ですよね)。

【摂理での恋愛】

もちろん禁止でした。うちの教会はどうもそういうのに弱い人が多いことで有名で、特に指導者は目を光らせていましたが、一般社会でも会社や大学で「あの人がって付き合ってたんや!？」なんてことがあるように、どれだけ目を光らせていても、わからないことは多々あります。携帯メールが普及してからはなおさらです。なので指導者が目を光らせてはいましたが、そのアンテナにひっかかる人たちはわずかだったし、わざわざ指導者に報告する人たちも一部の人們で、教会指導者が知らないところでできちゃってる人たちもいました。私が指導者への報告を怠っていただけです。っていうか言うに言えなかったというか……。そういう人たちの気持ちも理解できたから。

というのはかくいう私自身も一時期ふらっときた人がいたんですよね。別にその人とできちゃったとかではなかったんですけど。でも好きな人に会えたりしたら嬉しくなっちゃったりがんばっちゃったりするじゃないですか。こんなことなかなか相談できないから黙っていたんですが、ある日そんな私を見て、よく夢を見たり、霊的だといわれていた当時の教会リーダーMさんに「あこちゃん最近調子いいよね。霊が喜んでるし輝いているのがわかる」って言われたことがありました。「夢とか霊的とかってあんまり信用できないな」と感じました。

決してそのリーダーを試したり、裏でほくそえんだりということではありません。私自身も摂理でがんばってこうと思ってた時代でしたし。でも好きになる感情とかって簡単に整理したり、思いをなかつたことにしたりってできないじゃないですか。だから人を好きになってしまってハイテンションな私なのに「霊的だ。成長した」と言われるから、そのたびに複雑な思いをしていました。「靈感」ってほんとはないのかもな、とも思いました。ほかにも指導者たちの疑わしい靈感は多々ありましたが、それってなかなか指摘できないんですよね。むしろそんなところをみんなに知られないようにしなくちゃと思っていました。

例えば教会指導者の日曜礼拝の運転手をしたことがありました。彼は女性に弱いということで有名な人で、そのときも教会のある女性と噂になっていました。二人でらぶらぶメールを交わしていたのを知っています。携帯メールを保存しようと自分のパソコンにメール送ったらしいんですが、間違えて教会のパソコンに送ってしまったようなんですよね。その第一発見者となった私は他の人に報告するのもはばかれ、こっそり消しといたのですが、不信感は抱きました。夜に車で二人きりで寝られてたこともありました。

で、礼拝の朝家に迎えに行ったら昨日は帰ってきてない、携帯も通じないって住人が言うのです。礼拝まで時間がないから必死で探したら車で寝ている姿が発見されました。そのあとあわてて着替えられて礼拝場所までお連れしました。日曜の御言葉を語る前、代表お祈りだったか、他の指導者が「Bさんがものすごい時間かけて真心込めて準備してくださいましたので、その御言葉をうんたらかんたら」と言っていたときに、これまたなんとも言えない気持ちになりました。

人間だったら誰だってミスはあるし、完璧ではありません。私だって無論そうです。なので、その人に対してウンザリとか、つまずいたとかいうことではないんです。「指導者が絶対」「何が何でも指導

者を称える「そのためには事実をふせておかないといけない」ということもあるということなのです。同じことが教祖にも言えるのではないかと思うのです。私が必死で彼の素行を隠したように、今教祖が行っていること、過去に行っていたことを必死になって隠そうとしている人がいるとしたら？正当化するつもりもないしするべきではないとも思いますが、そうせざるをえないという気持ちや心境は、私にはわかります。私もしんどかったようにHさんも相当しんどい思いをされているのかもしれない。でもかばわないわけにはいかないのです。彼女はもう一生摂理とともに生きるしか道はないんですから。でもみなさんは違います。まだ間に合いです。

話がそれてしまいましたが、今後指導者のいう「霊」とか「夢」とかで自分の人生を判断したり、簡単に仕事をやめちゃったりするようなことは避けないといけないなと感じたことは確かです。

【祝福式の方法】

参加資格があるひとはまず教会リーダーからひとりずつ呼ばれて、参加の意思の確認が行われます。私はここで参加拒否しました。たぶん自分の人生がここで決まると思うと怖かったんだと思います。でもそういうことを言い訳にはできないので「自分はまだまだ学びたいから」と言いました。だいたい適齢期の方は「出たほうがいい」と言われていました。ちなみに教祖と体の関係があり、なおかつ指導者がそれを知っている場合、その人は「出たほうがいい」とは言われません。イエス様の恋人ということで一生結婚してはいけないといわれているからです（ここらあたりの話はハイジさんの手記をご参照ください）。

そしてそのあと各地方で集まりがもたれます。「祝福式とはなんぞや」とか「どのように相手が決まるか」みたいな説明がここではじめてメンバーになされます。参加する人は病院で健康診断を受診し、健康診断書を持って参加していました。義務付けられていたみたいですね。自分の信仰歴や使命や伝道人数などが書かれたプロフィールも提出していました。

何回かこのような集まりがもたれたあと、2002年は名古屋だったかそこらへんで全国の適齢期摂理人が集められて（話によると200人ほど）、そこには教祖も参加します。内容は祝福に関する御言葉や、いつものようなスポーツ大会、そして参加者全員による自己紹介などで、2泊3日ほどでした。いろいろな人と話して知り合って、ピンと来たら話に行くらしいです。そしてお互い意思の確認ができれば教祖のところへ許可をもらいにいく。教祖が「うん」と言えばオケーですが、2002年に「ダメ」と言われたカップルがあったらしく、その理由も告げられず落ち込んでいたそうです。

また「君達は3人伝道していないから、カップルとしては認めるが結婚はお互いが3人伝道してから」という話が出たらしく、私の友人は帰ってきて「早くがんばって伝道しなきゃ」と言っていて、これまた「大変だなあ」と思いました。大変というよりはなんかエサをぶら下げて走らされているような感じがしたというほうが正確かもしれません。

実際結婚式はふつうどおり「サークルで知り合った」とかなんとかでご両家や親戚交えて行われます。今合同結婚式は行われていないと思うのですが、過去は全員そろって行われていたようです。

【祝福式の疑問】

明らかにあまってしまう女性のことをどう考えるか

私がいた頃の摂理の男女比は4:6くらいでした。明らかに女子が余ってしまうということを指導者の方々は気にかけており、よく男性をもっと増やすように(伝道するように)と言われていました。で、こんなこというのもなんなのですが、どうしても何回やってもあまってしまう人がいるじゃないですか。2、3日でパートナー決める集いだと、なおさら積極的に出て行けない人だっているわけじゃないですか。そういう人にとったら憂鬱だと思うんですよね。

毎年参加しているのに全然決まらない女性がいて、「　　さんがいいと思ったんだけどふられちゃった」「　　さんともうまくいかなかった」「私は結婚しないことが御心なのかな」って言うのを聞いて、ちょっと切なくなっちゃいました。摂理はこのことをどう考えているのでしょうか？これも御心なのでしょうか？

明らかにあまってしまう人について

またこんなこと言ってしまうとかなり失礼ですけど、男女問わず積極的に話せないなどの理由でどうも結婚が決まってく輪からはずれる人たちが毎回いるらしいです。その場合あまった人たちを教祖が信仰歴や伝道人数や年齢の似たもの同士を組み合わせるって聞いたのですが、それは本当なのでしょうか？これはあまってしまった人たちから直接聞いたわけではないので私からの断言は避けたいのですが、このような話が摂理内で噂されていたことは事実です。

結婚は一生の一大事

別にねるとん形式が悪いと言っているのではなく、そういう場でそういう時間にそういう方法でしか決められないということが明らかにおかしいと思うのです。みなさんも知ってのとおり、人と人との出会って、ビックリするような偶然があったり、このときにしか会えなかったということがあったり、この人に会えてよかったという思いがあるじゃないですか。普通に生きてると日本全国のあらゆる場所のあらゆる人と、あらゆる偶然が重なって出会うことができます。まゝそれは結婚相手に限らずですが、摂理にはそういうチャンスが一切ありません。そういうチャンスは伝道するときのみです。伝道できなければ終わりです。

まだ結婚していない人は一度イメージしてほしい。祝福式があるというのはれっきとした事実です。そこに参加し、そこで知り合った摂理人と結婚し、一生摂理に身も心もお金も時間も捧げることがどのようなことなのか。今実家の親御さんにたくさんの嘘をついていますよね。結婚する際にはもっとたくさんの嘘をつきます。結婚式だってみんな祝福しに来てくれるのにそういう全員に対してあらゆる嘘をつき続けるのです。そして暮らしていくにはさらにたくさんの嘘をつき続けます。生まれてくる子どもにもきつとそうでしょう。救いのため、無知だからしょうがない、時がきていないという理由でここまで嘘をつくものなのだろうか。いつか後悔する日がきます。でもその後悔を表に決して出せないのです。あなた方は選ばれ、祝福を成し遂げた立派な2人なのですから。

思いつくことを書き続け、まとまりもなにもない文章ですが、摂理の祝福式について知りたい方のご参考になれば幸いです。